

高久 嶺之介 著

近代日本と地域振興

—京都府の近代—

2011年4月刊行

A5判・360頁／定価6,825円(税5%込) ISBN978-4-7842-1570-6

本書は、近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都宮津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。またその地域社会における様々な要求の噴出や地域改善の動きを、著者自身によるフィールドワークの成果も取り入れながら、交通体系の変化・新技術と議会の導入・地域の人々の活動の問題等を踏まえ、政治行政史と社会史を組み合わせつつぶさに描出。

内容目次

1 車道時代の到来—京都宮津間車道開鑿工事—

- 1 明治前期の国と京都府の道路政策
- 2 京都宮津間車道開鑿以前の丹波・丹後への道
- 3 車道開鑿工事の契機と当初の計画
- 4 道幅の設定
- 5 道路路線をめぐる争い
- 6 開鑿工事の進捗状況
- 7 栗田峠の開鑿
- 8 開鑿工事にかかわる諸問題
- 9 車道のその後

〔補論〕区町村土木補助費による道路開鑿

- 1 区町村土木補助費の府会での論議
- 2 区町村土木補助費施行の事例—伊賀街道新道—

2 琵琶湖疏水工事の時代

- 1 琵琶湖疏水開通のイベントとジャーナリズム
- 2 水力電気利用問題
- 3 鴨川運河問題
- 4 背景と北垣の行政

3 天橋立の近代—景観保存と地域振興—

- 1 天橋立国有林時代
- 2 天橋立公園の成立
- 3 与謝郡立公園としての大正期の天橋立
- 4 府立公園としての昭和戦前期の天橋立
- 5 敗戦直後の天橋立

4 開拓村の近代—京都府相楽郡童仙房村の軌跡—

- 1 童仙房の自然と今
- 2 童仙房開拓の開始
- 3 童仙房村の成立と童仙房支庁の創設
- 4 村誕生後の童仙房
- 5 紛争と歎願、そして童仙房支庁の廃止
- 6 明治中後期から大正期の童仙房の概観
- 7 小学校の維持
- 8 官有山林払い下げの請願
- 9 昭和戦前期の童仙房
- 10 昭和戦後の童仙房

たかく・れいのすけ…1947年秋田県生まれ。1976年同志社大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、同年同志社大学人文科学研究所助手、その後教授。2007年より京都橘大学文学部教授、現在にいたる。主要著書に『近代日本の地域社会と名望家』（柏書房、1997年）、『北垣国道日記「塵海」』（共編著、思文閣出版、2010年）など。

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel075-751-1781 fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)
冊数	冊	近代日本と地域振興	本体6,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1570-6
お名前		tel		
		e-mail		
ご住所	〒			
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)			書店番線印

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

▶A5判・628頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1413-6

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった――。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

I 都市 都市改造の自治喪失の起源 (伊従勉) ―一九一九年京都市区改正設計騒動の顛末― 都市計画事業として実施された土地区画整理 (中川理) 地価分布からみた近代京都の地域構造 (山田誠) 丹後加悦の縮細産業と近代の町並み (日向進)	II 風景 近代京都と桜の名所 (高木博志) 近代における京都の史蹟名勝保存 (丸山宏) ―史蹟名勝天然記念物保存法をめぐる― 「昔の東京」という京都イメージ (藤原学) ―谷崎潤一郎の京都へのまなざし― 御大典記念事業にみる観光振興主体の変遷 (工藤泰子) 近代絵馬群へのまなざし (長志珠絵) ―洛外村社と民俗― 近代京都 (桐谷邦夫)	III 文化 凋落と復興―近代能の場面― (小野芳朗) 京都の初期博覧会における「古美術」 (並木誠士) 近代の茶の湯復興における茶室の安土桃山イメージ (桐谷邦夫)	IV 政治 北垣府政期の東本願寺 (谷川穂) ―本山・政府要人・三井銀行の関係を― 京都府会と都市名望家 (原田敬一) 旧彦根藩土西村捨三における「京都府会志」を中心に (鈴木栄樹) (京都の祝祭)、そして彦根	V 学知 阿形精一と『平安通志』 (小林文広) 京都帝大総長及び図書館長批判の顛末 (廣庭基介) 田中緑紅の土俗学 (黒岩康博) ―『奇習と土俗』と二つの旅行― (西山伸) 京大生と「学徒出陣」 (菊地暁) 京大史の「民俗学」時代 (文化史学)の魅力と無力― ―西田直二郎― その	付論 京都市政史研究と近代京都イメージ論議 古代京都イメージと近代
--	---	---	---	--	--

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

明治期の地方官・北垣国道(1836-1916)が京都府知事に就任した明治14年から、北海道庁長官などを経て京都に隠棲した明治34年までのさまざまな活動を書き記した日記「塵海」の翻刻。京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究の進展に寄与する資料。

▶A5判・640頁／定価10,290円 ISBN978-4-7842-1499-0

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載された、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試み85篇。

【内容】まちのインフラ／まちのイメージと環境／まちの建築／美術と工芸／なりわいと政治／まつりと世相／京都帝国大学／みやこの海外

▶A5判・268頁／定価2,730円 ISBN978-4-7842-1378-8

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を23の大項目に分け、関連項目を34の小項目としてとりあげて、系統的・組織的に俯瞰した画期的な事典。

【大項目】道具、機械、産銅業、石炭産業、動力と動力システム、鉄道と船、航空機と自動車、情報・通信、環境技術、技術者教育 など

▶B5判・550頁／定価12,600円 ISBN978-4-7842-1345-0

近代日本公園史の研究

丸山宏著

近代欧米都市起源の公園がいつか近代化の装置として導入され、衛生問題・都市問題・記念事業・経済振興策・政治的役割など諸問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムの中にとらえた一書。

▶A5判・400頁／定価8,820円 ISBN4-7842-0865-8

文人世界の光芒と古都奈良

久留島浩・高木博志・高橋一樹編 大和の生き字引・水木要太郎

多様な史資料の「かたまり」である水木コレクション全容の復元、多分野に及ぶ資料群の形成過程や収集意図のもつ歴史的意義の解明を目的とした国立歴史民俗博物館の共同研究の成果。日本史学・考古学・建築史学・国文学・美術史学・地理学・社会言語学等にわたる学際的な一書。

▶A5判・508頁／定価8,190円 ISBN978-4-7842-1481-5

近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向 ほか

▶A5判・400頁／定価6,930円 ISBN4-7842-0873-9

鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明かす。

▶A5判・352頁／定価5,775円 ISBN978-4-7842-1336-8

都道府県庁舎 その建築史的考察

石田潤一郎著

一次史料をもとに都道府県庁舎の歴史的展開を個別に後付け、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みる。収録図版200余点。

▶A5判・440頁／定価9,030円 ISBN4-7842-0775-9

京都企業の光と影

日夏嘉寿雄・今口忠政編 成長・衰退のメカニズムと再生化への展望

組織的・戦略的・財務的諸側面から企業経営の本質に迫る手法によって、京都企業の置かれている状況と実態や具体的な成功と破綻企業例を取り上げ、企業衰退の測定モデルを分析し、企業の成長・衰退の理論と産業活性化の方策についてさぐる。

▶A5判・360頁／定価3,780円 ISBN4-7842-1030-X

京都の女性史

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編

【内容】藤原寛子とその時代／藤原道綱母から菅原孝標女へ／戦国期の「家」と女性／近松半二の作品にみる「京鹿子娘道成寺」と富士郎の芸の摂取／娼妓と遊客／京都大学最初の中国人留学生／小笛事件と山本禾太郎／戦間期京都における婦人運動

▶A5判・242頁／定価2,520円 ISBN4-7842-1123-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鳴東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・FAX・E-mailでお申し込み下さい。なお、※印の書籍にはカバー等に汚れ・傷みがございます。ご了承ください。